

行政視察等報告書

令和5年5月16日

米子市議会議長様

(会派の場合)

会派名 信風

代表者氏名 中田 利幸

提出者氏名 安達 卓是

(議員の場合)

議員名



(印)

下記のとおり報告します。

記

項目	<input type="checkbox"/> 現地調査 <input checked="" type="checkbox"/> 行政視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情活動 <input type="checkbox"/> 研修会への参加 <input type="checkbox"/> 会議への参加
参加者	中田 利幸 大下 哲治 安達 卓是
期日	令和5年5月10日から 令和5年5月11日まで
〔概要〕(年月日・場所・内容)	5月10日 神奈川県厚木市 ・超高齢社会に対応したごみ収集方法等(愛の一声収集事業)について 5月11日 東京都町田市 ・まちだ未来づくりビジョン2040(認知症施策)について ・障がい者福祉施設 町田リス園の運営等について
〔所感〕	別紙のとおり
経費	旅費 @ 円× 3人 = 241,323円 その他 @ 円× 人 = 円 合 計 241,323円

(注) 氏名を自署する場合は、押印を省略することができる。

行政視察報告書

〔概要〕(年月日・場所・内容)

年月日 令和5年5月10日午後2時から3時半まで

視察先 厚木市役所

調査項目 「超高齢社会に対応したごみ収集方法等(愛の一声ごみ収集事業)について

調査目的 高齢社会における愛の一声ごみ収集事業の内容とその効果に関する聞き取り、及びごみの減量化と資源利用に関する聞き取り調査

視察内容

①愛の一声ごみ収集事業について

この事業は、ごみ集積所にごみを出すことが困難な高齢者世帯等を対象に、玄関先からごみを収集し、併せて一声を掛け、安否を確認することにより、その世帯の日常の負担を軽減するとともに、在宅を継続するための支援を実施する事業である。視察においては事業概要及び結果とその効果について伺った。

②スリムストアー制度によるごみの減量化の取組について

厚木市では市民のごみ減量に対する意識の啓発、限りある資源の確保及び節約を目的とし、商品の適正包装、商品のはかり売りの推進等に積極的に取り組んでいる店舗を「厚木市スリムストアー」として認定して、ごみの減量化に取り組んでいる。視察においては事業の現状と今後の見通し及び事業課題と住民の反応について伺った。

③ごみの分別及びコンポストを使ったごみの資源化について

紙資源の再利用に関して、一般廃棄物処理基本計画で令和8年度の計画達成目標は、家庭系ごみ・事業系ごみの平成14年度対比の減量化率50%、家庭計ごみの資源化率を40%に設定し取り組んでいるが、その具体的取組内容及び事業効果等について伺った。

④ごみ出し作業の負担軽減やごみの減量化・資源化を目的とし、厚木市では2019年5月から、金田、まつかげ台、小野をモデル地区として、燃えるごみの戸別収集を実施し、検証してきた。その結果、モデル地区内において一定の効果が認められたので、2022年10月から厚木北・厚木南・依知南地区の全域にモデル地区を拡大することとなった。視察においてはごみの戸別収集制度の現状と課題及び今後の展開について伺った。

所感

少子高齢化が急速に進む社会において、多くの高齢者の方々が住み慣れた自宅や地域でできるだけ長く過ごしたいと考えておられる。しかし、生活を続けるにあたり、「買い物」問題と同様、「ごみ出し」も大きな問題となっている。

神奈川県中央部に位置する厚木市は人口224,378人で、老年人口比率が25.46%となっている。厚木市では超高齢社会に対応したごみ収集方法の在り方について検討するとともに、ごみの減量化、資源化に取り組んでこられた実績があることから現地に伺い視察を行った。

「愛の一声ごみ収集運動」は誰もが住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最期まで続けられるよう環境部、福祉部署、民間の介護支援サービス業者、民生委員等が連携し官民一体となり取り組んでおられ、地域包括ケアの一環となっている。そしてこの運動はごみ出しによる高齢利用者の安否確認にも繋がり、もしごみが出されていない場合は連絡先に連絡を入れる仕組みを作っている。利用者の方々からもこの運動のおかげで施設に入らず在宅生活が継続できていると高評価を受けていることが分かった。ごみの収集は米子市においても同様の問題となっており、この取組は高齢の方々住み慣れた地域で生活継続支援策の模範例として大変参考になった。

スリムストア制度によるごみの減量化の取組に関しては、レジ袋の有料化に伴いマイバッグの持参が一般的となったことから本来の目的の達成に向かいつつある。また令和5年3月よりスリムストア制度の一環として飲み会、交流会等において最初の30分と最後の10分は食事をする「3010運動」に取り組んでおり、食品ロス削減に繋がっていることを学んだ。米子市においても飲食店において多くの食べ残しが発生しており、ごみの減量化に取り組む中で参考になった。

ごみの減量化において、家庭ごみ・事業系ごみの減量化率、資源化率の目標値を設定し取り組んでいる。具体的な取組として、市民に対し、ごみ分別の細分化の徹底に取り組むとともに、コンポストによる生ごみの資源化における利活用の推進、電動生ごみ処理機推進によるごみの減量化を家庭内や学校において取り組んでいることから、地域において住民がごみに対し高い意識を持っていることが分かった。

ごみの戸別収集については現在、モデル地区にて戸別収集制度導入を通じ、人口密集地区、交通量が多い地区における収集業務の検証、集合住宅率の高い地区における減量効果の検証のほか、収集台数と収集時間の変化の検証を行っている。令和元年5月から行った先行地区では約12%の削減効果があったとの報告を受けた。その要因として戸別収集制度では各家庭ごとにごみを出すことから、誰が出したかが分かるようになったことが挙げられる。収集台数・時間に関してはまだ検証中であるとのことであったが、検証の結果、交通量については多い地区でも支障なく実施できたが、米子市同様、狭隘地区においては通常のパッカー車では収集ができないため、軽ダンプを使用し収集していることから、収集効率が悪くなっていることが分かった。

現在、高齢者の多くが一人暮らしや高齢者のみの世帯が多く存在しており、個々の力だけで生活を維持するのは難しくなっており、ごみ収集に併せた一声運動は高齢者の生活負担を軽減させるだけでなく、安否確認、精神的な安定など多くの効果をもたらすことが分かり大変参考になった。

会派視察報告

(令和5年5月11日実施)

視察自治体：東京都町田市

視察項目：まちだ未来づくりビジョン2040（認知症施策）について

町田市は、「町田いきいき長寿プラン21-23」に掲げた認知症の基本施策として、1. 認知症の人やその家族の視点を重視した地域づくりの推進、2. 認知症早期対応・受診の支援の充実を取組の柱として進めており、「居場所づくり」、「認知症サポーターの養成」、「行方不明高齢者の捜索支援」、「認知症相談支援」、「早期受診支援」などに取り組んでいる。

これまで、認知症当事者、家族、医療、介護関係者、NPO団体、学術研究者、企業、政府関係者等を集めたワークショップを重ね、様々な取組を重ねながら現在に至っており、「認知症の人にやさしいまちづくり」として、認知症の人が住み慣れた地域で生活できるよう、地域住民や関係者たちが「支える」まちづくりに取り組んできたが、それをさらに進め、「認知症とともに生きるまちづくり」として、「認知症の人が住み慣れた地域で生活できるよう、認知症の人も地域の一員として自分らしく活躍するまちづくり」へと目標を進めて取り組んでいる。

特に注目すべきなのは、認知症カフェ「Dカフェ」の取組で、Dはdementia（認知症）から。これは、市内のスターバックスコーヒーと提携し、店舗で開催されるもので、参加者同士で自由におしゃべりする場として、診断により認知症と診断を受けてから、介護が必要な状況になるまでの間の取組として行われており、認知症の進行を抑える効果もあると考えられる。ファシリテーター1名を開催時に配置し、その役割が大変重要だとのことである。今後もファシリテーターの人材の育成・確保が必要とのことであった。

スターバックスでの開催は、スターバックスコーヒーの社会貢献事業と町田市の地域

包括支援センターのまちづくりが背景にあって実現しており、さらに言えば、これまで長く町田市が「福祉のまちづくり」を進めてきた成果として、住民の福祉に対する理解が高いことが伺える。

以上、視察により得られた調査成果であるが、米子市に置き換えて考えると、米子市の場合、まだまだ認知症への理解や、当事者とその家族への他者のかかわり方などへの理解を深め、地域で受け入れることについての取組が必要であると考え、多様な居場所づくりについては大変参考になった。

町田リス園現地視察報告

【日 時】 令和5年5月11日(木) 14:45~16:00

【会 場】 東京都町田市本薬師台1-733-1

【説明者】 まちだリス園 園長 樋口 健治さん

町田市障がい福祉課長 金子 和彦さん

<概 要>

- ・1988年に、公設民営として施設の運営を開始、現在に至る 特定非営利活動法人 町田リス園
障害者自立支援法に基づく就労継続支援B型施設 障がい者21名(女性7名、男性14名)
2009年以前の組織から独立して、現在の事業所として活動している。
- ・町田動物愛護の会 「人と動物のより良い共生社会の実現を目指して」(主題 運営のパンフレット)
— まちだ動物愛護フェスタ、犬猫飼育に関する相談会、ひとと動物のふれあい絵画展、
その他シンポジウムや勉強会 などの開催(町田市保健所の協力)
- ・獣医1人配置
- ・過去5年間の入園者の実績 18年度=約164,000人、19年度=約149,000人、20年度=
約106,000人(2月間休園)、21年度=約133,000人(1月間休園)、22年度=約148,000人

<所 感>

- ・福祉施策として、就労継続支援B型の福祉施設の運営事業所の現況であり、知的障害:17人、身体障害:3人 利用者は20歳代から73歳までの合計20人(定員)という幅広い年齢世代である。
- ・2018年度~2022年度の毎月の初日在籍者数がほぼ20人を超えており、昨年度は、年間延べ255人の実績であり、通所利用者にとって大変利用しやすい施設であると施設長の実感を聞いた。
高齢の利用者さんにも好評であるという。我々が、園内の順路を移動するたびに利用者さんの自信を持つための対応が好印象であった。
- ・障がい者の特性については、全般的に見受けることは無いようであった。通所の時間が長く継続しているという。つまり通いやすい施設である。

- ・当初、視察前に心配していた利用者の年間を通じて四季の変化の影響は無いようである。
- ・運営方針が長らく継続されていて、行政や障がい者にとって地域の活動拠点の役割を果たしていて存在意義が保たれている。

このリス園は、地域では多くの利用者に親しまれていて実績を積み重ねている実状を拝見することができた。

行政視察行程 (会派：信風 4名)

月 日	行 程	宿 泊 先
5/10 (水)	<p>7:25 米子空港 ANA382便 8:45 羽田空港 東京モノレール空港快速・浜松町行 9:59 羽田空港 品川駅 品川方面行 10:18 浜松町駅 JR山手線・品川方面行 10:35 品川駅 JR東海道本線・熱海行 10:41 品川駅 JR相模線・橋本行 10:45 茅ヶ崎駅 11:30 厚木駅 11:58 厚木駅</p> <p>厚木市行政視察 午後2時00分から午後3時00分まで 【調査項目】超高齢社会に対応したごみ収集方法等 (愛の一声ごみ収集事業) について 【議事事務局】 ☎ : 046-225-2700</p>	<p>ホテルビスタ厚木 ☎ : 046-297-0888</p>
5/11 (木)	<p>10:24 厚木駅 JR相模線・橋本行 10:58 橋本駅 JR横浜線・東神奈川行 11:04 町田駅 11:18 町田駅</p> <p>町田市行政視察 午後1時00分から午後4時00分まで 【調査項目】まちだビジョン (認知症施策) 及び町田リス園について 【議事事務局】 ☎ : 042-724-4049</p> <p>17:03 町田駅 JR横浜線・桜木町行 17:37 横浜駅 JR東海道本線・古河行 17:40 品川駅 JR京浜東北・根岸線・大宮行 17:56 品川駅 東京モノレール羽田空港行 18:02 品川駅 ANA389便 18:09 浜松町駅 18:19 羽田空港 18:43 羽田空港 20:05 米子空港 21:25 米子空港</p>	

旅費計算表

神奈川県厚木市、東京都町田市

(中田議員、安達議員、大下議員) 会派信風行政視察

令和5年5月10日～令和5年5月11日 (1泊2日)

月日	区間	鉄道路線名	区キ	間数	目的地までのキロ数	運賃	グリーン	急行料金		泊料
								別	当宿	
5/10 (木)	米子空港～羽田空港	ANA				30,270		議員1,500円	甲 14,800円	乙 13,300円
	～浜松町	東京モノレール				492		随行1,100円	10,900円	9,800円
	～厚木駅	JR				1,166				
	～本厚木	小田急				136				
5/11 (木)	本厚木～町田	小田急				261			1,500	
	町田駅～浜松町駅	JR				824				
	～羽田空港	東京モノレール				492				
	～米子空港	ANA				30,270				
計	議員旅行				77,011	63,911	0	0	3,000	0
	随員				0					10,100

出張席 議員 中田議員、安達議員、大下議員 ※伊藤議員は急用により視察を取りやめた。

- 議員旅費 77,011 × 3名 = 231,033 円
- 入場料 500 × 3名 = 1,500 円 (町田リス園)
- 取扱料金 550 円
- お土産代 2,180 × 2 = 4,360 円 (厚木市、町田市)
- 航空券手数料 3,880 円 ※伊藤議員参加取りやめによるもの
- 計① 241,323 円